



ポヌール デイケア通信 2024.4

消えゆく?! ソメイヨシノ

戦後、日本中いたるところに植樹されたソメイヨシノ。樹齢70年前後となり、倒木や枝落ちの危険があるため、昨年の秋頃から、各自治体と「日本花の会」による、計画的伐採および新しい苗木の植付けが始まっています。新しい苗木は、「ジンダイアケボノ」が主流。

ワシントン帰りの交雑種「akebono」を神代植物園で改良し、偶然できた新種です。成木はやや小ぶり、花ごとにピンクの濃淡あり、愛らしい印象の品種です。

いざや 見にゆかん

なぜ、なじみ深いソメイヨシノを植えないの？理由の一つはソメイヨシノの成長の早さにあります。木が若いうちから良く花が咲き、戦後の復興時期には最適でした。その後、都市化が進むと、育ち過ぎた幹が車道にはみ出す、張り出した枝で標識が隠れる、強い根がアスファルトを凸凹にする等、問題が出てきました。もう一つの理由は、伝染病の「てんぐ巢病」です。

ソメイヨシノはこの病気に弱く、効く薬が無い(！)為、接ぎ木で伝染した苗木を配布すれば、病気の拡散を招く。よって平成17年で苗木配布は終了しました。今ある貴重なソメイヨシノを「いざや見ておかん」

月に5回ある麺の日
ご好評頂いています



- 三月二十五日 昼
- ちゃんぽんうどん
- 肉団子
- カニコロツケ
- 菜の花の梅あえ
- 黄桃



4/3・4に外出リハビリとしてお花見を実施。3日は、あいにくの雨天でしたが

帰りの送迎で少しか遠回りして、車窓からの桜見物としました。消えゆくソメイヨシノは“諸行無常”。お花見は誰の“所業？無情”の雨。



花冷えの日は、巡りを
良くして乗り切りましょう

日本でお花見まっ盛りの時季、
イギリス等では「**イースター**」の祝日があり
春の訪れを祝います。イースターといえば**イースターエッグ**。

卵は新しい生命の象徴。長い冬を越した植物や動物や鳥たちが
いっせいに目覚めて活動開始する「復活」を意味しているのです。
イースターに行われる、卵を用いた海外の習慣をいくつかご紹介♪

- 生卵の中身を抜き、洗って乾かし、色や模様を付けて、リボンか
きれいなひもで、リビング、キッチン等に吊り下げて、**飾り付け**。
持ち手付きのカゴに盛って置くのも、素朴で可愛らしい演出です。
- かたゆで卵を、夜明け前に庭のあちこちに隠しておき、子ども達
が探す、昔ながらの**エッグハント**。見つけたら食べていいのです。
現代は、イースター用に卵型のチョコレートや焼き菓子等が種類
多く販売され、これらを購入して使うのが一般的になっています。
- 家族みんなで、**卵料理**やその他のごちそうを囲み、**お祝い**する。
- 柄の長いスプーンに卵をのせ、落とさないように、しんちょうに
旗まで行って戻って来る**スプーンレース**。町や市をあげて開催し
どのチームが勝つか楽しく予想したり。

※手作り文化の伝承、コミュニティ、
競い合ったり賭けたりを好む、等
のお国柄がうかがえ、興味深いですね！

ポヌールでも、午後のレクでイースターエッグ
を作りました。発泡スチロール製の卵ですが
さすがは生命の象徴。色塗りをするうちに
「カラーセラピー効果」もあいまって、
活力がわいてくるレクでしたね♪



↑手が汚れないよう
竹串に刺して彩色

↑絵の具を
乾かし中♪